

「戦後」80年特別企画

なはーと
ダイアログ
2025-26

第1回

「沖縄」の表現と、 「戦後」80年以降の文化芸術

上原沙也加
写真家

兼島拓也
劇作家

高里風花
琉球芸能立方

豊永浩平
小説家

仲村颯悟
映画監督



●写真：上地萌 ●デザイン：浪久地葉生(BALCOLONY, OKINAWA)

2025.7.20(日) 14:00-16:30 (13:30開場)

会場 那覇文化芸術劇場なはーと 3階 大スタジオ 参加費 無料 定員 80名

申込 なはーとWEBサイトよりGoogleフォームでの申込み、もしくは電話 ☎098-861-7810、なはーと窓口にて(10:00-19:00)



「戦後」80年特別企画

「沖縄」の表現と、 「戦後」80年以降の 文化芸術

那覇文化芸術劇場なはーとでは、オープンした2021年度から、これからの那覇の文化芸術をどう育んでいくのかについて、「なはーとダイアログ」を通じて市民参加の議論を続けています。

今年はいわゆる「戦後」80年。この節目に私たちは何を振り返り、どこへ向けて道を作るべきでしょうか？ 今回は、様々なジャンルのアーティストとともに、これまで「沖縄」が内と外から、どのようにまなざされてきたのかを振り返り、今後の芸術表現について考えます。

ありきたりなイメージに回収されず、地域の期待に応えるだけでもない、見知らぬ他者とつながりながら現実を変えていくような表現を試みるアーティストたちを迎え、「戦後」80年以降の文化芸術を話し合います。みなさまのご参加をお待ちしています。

2025年7月20日(日)

14:00-16:30 (13:30開場)

【会場】 那覇文化芸術劇場なはーと 3階大スタジオ

【参加費】 無料

【定員】 80名

【申込】 なはーとWEBサイトより
【お問合せ】 グーグルフォームでの申込み、
もしくは電話 ☎098-861-7810、
なはーと窓口にて(10:00-19:00)

休館日：第1・第3月曜 ※祝日は開館、祝日が重なった場合は翌日が休館となります。※会場内には靴を脱いでお入りいただきます。※ヒアリンググループ席がございます。座席数に限りがありますので事前にご予約をお願いします。※手話通訳があります。※バリアフリー駐車場、二輪専用駐車場は若干台分ございます。

申込みQR



那覇文化芸術劇場なはーと

NAHA CULTURAL ARTS THEATER NAHArt

沖縄県那覇市久茂地3丁目26-27 tel.098-861-7810



バス

- 若松入口 徒歩約6分
- 久茂地公民館前 徒歩約2分
- 沖銀本店前 徒歩約6分
- 松尾一丁目 徒歩約6分
- 松尾 徒歩約6分

モノレール

- 県庁前駅 徒歩約6分
- 美栄橋駅 徒歩約6分

※一般駐車場はございません。ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

登壇者



上原沙也加(写真家) | うへはら・さやか

1993年沖縄県生まれ。写真家。主な受賞に、第36回写真の町東川賞新人作家賞(2020)、「VOCA展 2024 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」VOCA奨励賞、大原美術館賞(2024)、出版物に『眠る木』(赤々舎、2022)がある。風景のなかに立ち現れる記憶や傷跡、場所や物が保持している時間の層を捉える実践として、写真作品を制作している。



兼島拓也(劇作家) | かねしま・たくや

1989年沖縄県生、在住。2013年に「チョコ泥棒」を結成し、脚本と演出を担当。また、琉球舞踊家との「玉どろぼう」の活動も行う。脚本家として18年、『Folklore (フォークロア)』で、第14回おきなわ文学賞シナリオ・戯曲部門の一席を受賞。他2作品で同賞佳作受賞。21年NHK-FMシアター『ふしぎの国のハイサイ食堂』で、第31回オーディオドラマ奨励賞入選。22年『ライカムで待って』で、第30回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。同作で第26回鶴屋南北戯曲賞および第67回岸田國士戯曲賞の最終候補となり、24年に再演。同年『刺青 / TATTOOER』を日本英国上演、作・共同演出した『花売の縁オン(ザ)ライン』は、第69回岸田國士戯曲賞の最終候補となる。



高里風花(琉球芸能 立方) | たかざと・ふうか

1995年生まれ、沖縄県宜野座村出身。宮城流豊舞会所属、宮城豊子に師事。沖縄県立芸術大学大学院舞台芸術専攻琉球舞踊・組踊コース修了。大学院では組踊を専修し、地元・宜野座村に残る幻の組踊「黄金の羽釜 里川の子」を研究し発表。2024年に宜野座村で行った「故郷公演」の様子は各種メディアに取り上げられた。2024年6月には約5週間のヨーロッパひとりを旅を決行。7カ国を巡りながら琉球舞踊を披露し、また各国の芸術・文化に触れる時間を過ごす。現在は「琉球舞踊の本質を崩さず」にその素晴らしさを多くの人に伝えるにはを念頭に、現代演劇との共同制作や出演以外にも様々な舞台を企画するなど精力的に活動中。



豊永浩平(小説家) | とよなが・こうへい

2003年、那覇市に生まれ浦添市で育つ。琉球大学人文学部にて、本格的に文学を学ぶ。大学在学中、『月ぬ走いや、馬ぬ走い』を執筆。同作で第六七回群像新人文文学賞、第四六回野間文芸新人賞、第十一回沖縄書店大賞(小説部門)などを受賞。2025年、琉球大学人文学部を卒業。現在は東京に移住し、執筆活動を続けている。



仲村颯悟(映画監督) | なかむら・りゅうご

1996年沖縄県沖縄市生まれ。小学生の頃からホームビデオカメラを手に、数多くの作品を制作。13歳の時に手がけた自身初の長編デビュー映画『やぎの冒険』(2010年)が国内外で絶賛される。2016年には長編2作目の『人魚に会える日。』を全編自主制作し、全国公開した。現在は沖縄を拠点にテレビ番組や映画を手がける。

司会

石垣綾音(株式会社さびら)

林立騎(那覇文化芸術劇場なはーと)

プログラム

- 14:00 — 14:05 開会
- 14:05 — 14:55 アーティストによる発表
- 14:55 — 15:15 司会からの質問・登壇者間での議論
- 15:15 — 15:40 休憩
- 15:40 — 16:25 会場との議論・質疑応答
- 16:25 — 16:30 閉会・今後の告知等

